

## 表紙解説

### 「松田菅蔵翁之像」

この碑は、佐伯市浅海井公園の入り口に建っています。

松田菅蔵翁は、明治十二年十月に出生し、その一生の大半を土木建築業につきやしました。

当時の上浦町は半農半漁の村で、非常に貧しく、人々は農業の傍ら男性は土木建築に、女性は紡績業にと出稼ぎに出かけていました。明治末から大正の初めにかけては、大分佐伯線（後の日豊本線）建設の為、山を削りトンネルを掘りして土木に精出していました。いわゆる「豊後ドッコ」と呼ばれていました。

「豊後ドッコ」として全国各地を渡り歩き、活躍しています。

当時の上浦には、これらの請負業者が多く、佐藤蔵太郎氏の「東上浦村誌」には「上浦の請負八人衆の名前があげられています。松田菅蔵の他には

旧役場町舎新築公園造営の樹村圓治

村の観光発展に寄与した曾根角治

佐伯飛行場建設に従事の児玉杣五郎

国鉄保線区・宝松トンネルの菅定吉

西上浦～直川間の鉄道の児玉光蔵

佐伯南郡の県事業の児玉孫一

佐伯南郡の災害復旧事業の菅梅太郎

がいます。

菅蔵は、隧道工事で活躍し、昭和十四年より村会議員二期を勤める。

村政に新風を注ぎ、村政全般に至り貢献  
県知事より表彰される。

## 編集後記

会誌二三四号をお届けします。

今回は、佐伯史談会発足六十周年記念号  
に続き、B5判となります。

今回は従来3月に発行する予定でしたが、史談の会計年度の変更等により、5  
月に発行することになりました。

会員の皆様方の投稿と研究発表の後半部

分等で多少ページ数が多くなりました。  
大変ありがとうございました。

従来、編集委員会を開催し数度の校正  
を行い印刷製本に回していましたが、編  
集委員の高齢化と病氣療養等で事務局と  
タイアップしての発行になります。新た  
な編集担当や協力者が決定するまで、執  
行部と編集担当との合作とします。  
新しい原稿をお待ちしています

編集には出来るだけ時間をかけ、原稿  
の内容、質、背景等を考えながら構成し  
ていきます。今回は従前の二回の編集委  
員会、二回の校正会とは異なったものと  
なりました。編集にも十分な時間が取れ  
ず、今一つ納得がいかない面もありま  
した。発行の内容、構成について過誤が生  
じているかも知れません。読まれた後の  
会員皆さま方のご意見を戴きたいと思  
います。よろしく願います。

(文責 編集部 吉田勝重)